

素顔拝見

予防歯科学分野

竹原祥子

こんにちは、令和3年9月1日より予防歯科学分野の准教授を拝命した竹原祥子（たけはらさちこ）と申します。出身は岡山県で、新潟大学教員を拝命する以前は家族と一緒に千葉市に住んでおりました。新潟には単身赴任になります。

これまでの略歴ですが、東京医科歯科大学歯学部を卒業し、学位を取得後、同大学健康推進歯学分野の教員として口臭外来での診療、教育及び研究に携わりました。口臭に関する研究では疫学的研究にとどまらず、唾液タンパク質と口臭との関連について生化学分野の研究を行ってきました。その後、平成29年に東京女子医科大学医学部公衆衛生学講座の助教として着任し、医学部および看護学部の学生教育、研究に携わりました。研究では、電磁波の健康影響について総務省の疫学調査に参加するなど、歯科学分野では触れたことがなかった分野の研究に取り組み、実践を通じて疫学研究の基礎を学びなおすことができました。また東京女子医科大学在任中に、豪州政府助成を得てシドニー大学のリサーチフェローとして半年間の留学の機会を頂き、高齢男性対象のコホート調査に参加するなど、貴重な経験を得ました。現在は新潟大学予防歯科学分野の准教授として、大学院生の研究指導、学生教育、予防外来及び口臭外来



での診療、WHOコラボレーティングセンター（WHOCC）の情報発信や調査研究を担当させて頂いております。

歯学部卒業してから現在までを振り返ってみると、歯学部学生時代には高野吉郎先生（東京医科歯科大学元教授、新潟大学出身）に解剖学を学び、東京医科歯科大学在任中は安藤雄一先生（国立保健医療科学院、新潟大学出身）がリーダーを務められていた平成23年歯科疾患実態調査解析グループの一員として報告書作成に関わるなど、複数の新潟大学出身の先生にご縁してきました。新潟大学予防歯科学分野の准教授の任務を拝命するにあたり、歴史ある新潟大学歯学部の教員が私で務まるのか不安なことも多くありましたが、教授である小川祐司先生、葭原明弘先生、濃野要先生をはじめ、予防歯科学分野の先生方に助けて頂きながら、この一年を乗り切ることができました。新潟大学歯学部の発展に少しでも貢献できるよう、日々邁進していく所存です。どうぞよろしくお願い致します。



Division of Anatomy and Cell
Biology of the Hard Tissue

Angela Quispe-Salcedo

Coming back to the place where everything started

My name is Angela (Angie) Quispe-Salcedo, I am from Peru, and after a long while I am back to Niigata University, this time as Assistant Professor at the Division of Anatomy and Cell Biology of

the Hard Tissue.

I graduated from the Faculty of Dentistry of the National University of San Marcos in Lima, my home city, in 2006; and following a period when I worked as a clinician, I successfully applied for the Japanese Government Scholarships (MEXT) to pursue a PhD degree in Japan. I moved to Niigata in 2010 and began my journey as PhD student at the Division of Anatomy and Cell Biology of the Hard Tissue, under the supervision of Professor Hayato Ohshima. I very much treasure the years I spent during the graduate school: the experience of sharing and learning from my supervisor Dr. Hiroko Ida, who kindly helped me every time, and the feeling of discovering something new, are unforgettable memories that I will keep forever in my heart.

Soon after my graduation in 2014, I moved back to my country and then I relocated to United States of America, where I worked as a Postdoctoral Fellow at the University of Texas at Houston, and later, at the Department of Oral Biology in the College of Dentistry of New York University. I also had the experience to live and work in Switzerland through a short-term fellowship in the Institute for Oral Biology at the University of Zurich. In 2020, at the beginning of the COVID-19 pandemic, Prof. Ohshima and I were granted a Fellowship from the Japanese Society for the Promotion of Science (JSPS) for Foreign Researchers that let me be back to Niigata University to work in the laboratory where I started as a PhD student more than 10 years ago.

Since last March, I became Assistant Professor and started working in the Gross Anatomy Dissection course and my own research project. During all these years, my research field has been always related to the biology of the dental pulp, and its responses following tooth injuries. I consider this is an exciting field that needs to be further investigated.

Although every day is a big challenge (My Japanese is not great!), I am very glad and grateful of being here. I like Niigata city, the food and the feeling of being in a place that I consider my second home. I am looking forward to continuing my career as a researcher and educator, and to gathering more beautiful memories for the future.



包括歯科補綴学分野

兒玉匠平

令和3年6月から包括歯科補綴学分野の助教を拝命いたしました、兒玉匠平（こだましょうへい）と申します。この度は「素顔拝見」の記事を寄稿させていただく機会を頂きましたので、僭越ながら自己紹介をさせていただければと存じます。

私は新潟大学歯学部45期の卒業で、卒後は包括歯科補綴学分野の大学院に進学しました。大学院時代は素晴らしい先輩方にも恵まれ、ひたすら補綴臨床に明け暮れる毎日でした。大学院卒業後は小野高裕元教授から紹介していただき、顎口腔インプラント治療部の荒井良明先生の下で1年と2か月という短い期間ではございましたが医員として学ばせて頂く機会を得ました。現在は包括歯科補綴学分野に戻り、ありがたくも助教として働

かせていただいております。インプラントと顎関節について学ぶ機会は私にとって大きなターニングポイントとなり、それまで大学院時代に取り組んできた義歯治療と合わせることで非常に臨床の幅が広がりました。まだまだ駆け出しの身ではありますが、自分の得た知識を更新しながらも医局の後輩たちにいかに広げられるかが今後の課題です。

普段は義歯診療科で診療をする傍ら、学生教育にも従事させていただくようになり1年が経過しました。自分自身の知識を再整理しなければならず教育の難しさを感じた一方で、学生の皆さんの成長を見ることができた時にはとてもやりがいを感じました。今の学生の皆さんを見てみると自分が学生だった頃よりもよほどしっかりしているなと感心させられるばかりです。自分の学生時代を振り返ると本当に怒られていた記憶ばかりが思い出される、いわゆる劣等生でしたのでまさかそんな自分が学生教育だなんて今でも信じられない気持ちです。今の自分があるのも当時お世話になった包括歯科補綴学分野の教員の先生方のおかげなのは間違いありません。自分が受けた御恩を学生の皆さんに還元できるように努めるつもりです。

さて、話題を変えまして恥ずかしながらも私の私生活について触れたいと思います。令和4年2月に第1子が生まれまして、生活が子供を中心とするものに様変わりしました。中学・高校の思春期をいわゆるコミュ障な学生として過ごしてきた自分としては父親になる準備が全く整わないまま子育てが始まってしまった次第です。元気で明るい子に育ってくれば良いのですが、子供に恥じないような父親になれるよう頑張りたいと思います。自分のような不出来な人間についてきてくれる妻にも感謝です。子供ができてからよく写真を撮るようになったのですが、2月に子供が生まれてからの春・夏・秋と四季の変化を感じることができるようになりました。新潟に住んで14年になりますが、こんなに四季がきれいな街だったのかと再認識しております。カメラを教えてくれた村上和裕先生に感謝したいと思います。週末はベビーカーを押しながら万代の街をショッピングするのが日課ですので、見かけたときはお声がけ

ください。

今後も精進してまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。



包括歯科補綴学分野

吉村 将 悟

2021年7月1日付で、包括歯科補綴学分野の助教を拝命しました吉村将悟と申します。「素顔拝見」の執筆の機会をいただきましたので、この場をお借りして自己紹介や近況について少しだけお話をさせていただきます。

出身は福井県鯖江市で北陸高速道を車で走ると目に入ってくる『O-O SABAE』のハリウッドライクな看板がある眼鏡で有名な町になります。当然のように僕もハードな眼鏡ユーザーです…。大学進学に伴い新潟に移り住んだ当初、眼鏡の町しか知らなかった僕からすると、新潟が凄く近代的な街に思えたのがいい思い出です。

小学校、中学高時代はいたずら好きな性格も相まって両親に色々と“少しだけ”迷惑をかけながらも、スポーツ少年団の頃から続けていたバレーボールに情熱を注いでおりました。チーム自体が北信越大会出場を複数回経験していたことや、中学1年生の時の大会でベストリベロ賞を受賞したこともあり、将来はVリーグの選手（プロのバレーボール選手）になりたいと思っていました。しかし、身体が小さかったことや実力不足の実感もあって次第にその夢は諦めるようになっていきました。夢を諦め、なにしようかな一くらいで楽観的に考えていた頃、母親の勧めで受けた歯科矯正治療で、口の中をデザインしていくという歯科独特の特徴に惹かれ、新潟大学歯学部を目指すことになりました。2010年（46期生）に入学後、順調に進んで、包括歯科補綴学分野の扉を叩いた最も大きな理由の一つは、卒前臨床実習中の咬合採得（義歯）のステップで、今も学生時代も恩師で

ある先生に「君はできるから大丈夫だよ」と言われ、その気になって治療に臨んだものの途中で自分が何をやっているか分からなくなり、結局先生に頼りきってしまったという苦しくも悔しい経験をしたからだろうなと思っています。まだまだ未熟なものの少しだけ臨床への理解も深まり、『包括的な口腔デザイン』に再度惹きつけられ、日々の臨床を苦しくも楽しんでいます。また、助教となり自分が臨床実習で学生に指導する立場になると、人に教えることで見えてくる自身の知識や認識の甘さを痛感し、学生に指導しているつもりが自分も学生に教えてもらっているかもしれないんだなと思うと同時に、指導した学生に着実に力がついていくのを見ると教育の楽しさも実感できてきました。

大学院時代から現在まで行っている研究では、小野教授、堀准教授の指導の下、『bitescan[®]』と呼ばれる耳にかけて咀嚼を計るウェアラブル咀嚼回数計測装置を用いて、若年者における咀嚼行動の基礎的なデータの収集から、肥満と咀嚼回数の関係性の検討を行っていたりとまだまだ明らかにされていない咀嚼行動領域への研究に日々邁進しております。

最後に、未熟者ではございますが新潟大学歯学部の発展のために尽力していく所存です。至らぬ点多々あるかと思いますが、皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



高度医療開発センター先進
医療開拓部門

都 野 隆 博

2021年6月1日付で、新潟大学医歯学総合病院の高度医療開発センターの特任助教を拝命いたしました、都野隆博と申します。この度、歯学部ニュース「素顔拝見」を執筆する機会を頂きましたので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

出身は埼玉県白岡町（現：白岡市）という田畑の緑豊かな町で、公務員の両親の間に生まれました。小学生の頃は少年野球をやらせてもらい、またゲームを買ってもらうなど、家の外でも中でもよく遊ぶ子供でした。そんな落ち着きのない子供時代に両親の勧めもあり、書道を習い始めました。初めは正座すらもつらく感じたものの、10年間も続くと“継続は力”となり、高等師範免許の取得まで至りました。当時は有難みを感じることは少なかったのですが、大人になった今、悪筆を晒さないように気を付けることができ、両親にとっても感謝してます。高校ではフットサルを行い、生徒会として学園祭を企画するなど、充実したスクールライフを過ごす中で、将来自分はどんな仕事をしたいのだろうと漠然と考えるようになりました。色々な職種を調べていく中でやりがいのある医療職をしたいと思い、歯科医師を目指すようになり、46期生として新潟大学歯学部に入學しました。入學して初めて歯科業界というものに触れていき、また楽しい同期に囲まれながら、無事に歯科医師になることができました。

大學卒業後は歯周診断・再建学分野に入局し、大学院にて歯周医学に関する学位研究を行いつつ、骨再生の研究も行っておりました。多くの国内・国際学会で研究発表させていただき、また臨床では医局の先生方にご指導を頂きながら歯周病認定医を取得することができ、駆け出しの研究者・臨床医として充実したスタートを切ることができました。現在は医歯学総合病院の高度医療開発センター先進医療開拓部門に所属し、歯科再生医療の取り組みに参加させて頂いています。これまで新潟大学医歯学総合病院で培われてきた再生医療技術の発展および社会普及を目標に、一人の歯科医師として本取り組みに参画できることを心より嬉しく思います。

最後になりますが、歯周診断・再建学分野および高度医療開発センターの先生方には日頃よりご指導ご鞭撻賜り、厚く御礼申し上げますとともに、私自身まだ若輩者ではありますが、新潟大学歯学部の発展に貢献していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。